

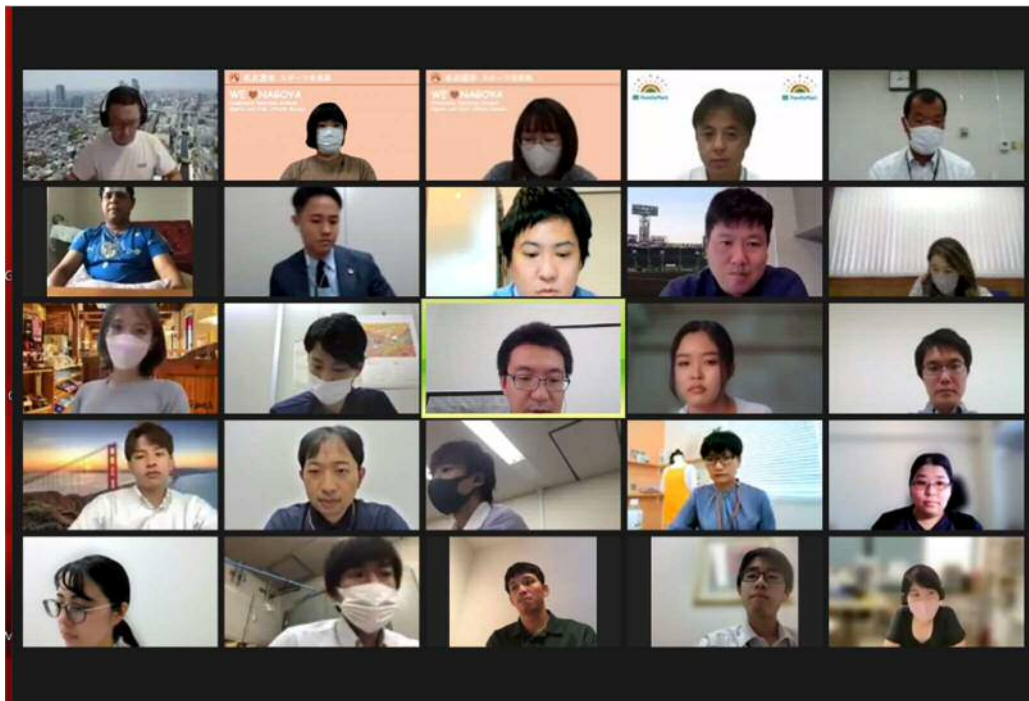
ナゴヤをつなげる 30 人 第 3 期 Day2 レポート

2021 年 9 月 7 日、名古屋市スポーツ市民局地域振興課主催の「ナゴヤをつなげる 30 人」第 3 期 Day2 が開催されました。

「ナゴヤをつなげる 30 人」は、名古屋に関係する企業、NPO、大学、行政など、多様なセクターから集った有志が、組織やセクターの枠を越え、まるで学校の同級生や組織の同期生のようにフラットにつながりながら、名古屋をより良いまちにしていこうという取り組みです。集まったメンバーがつながりを深めながら、課題解決のための活動を約半年間かけて立案・実行していきます。今年度はより地域課題に密着するため、中村区と中川区にフォーカスして開催しています。

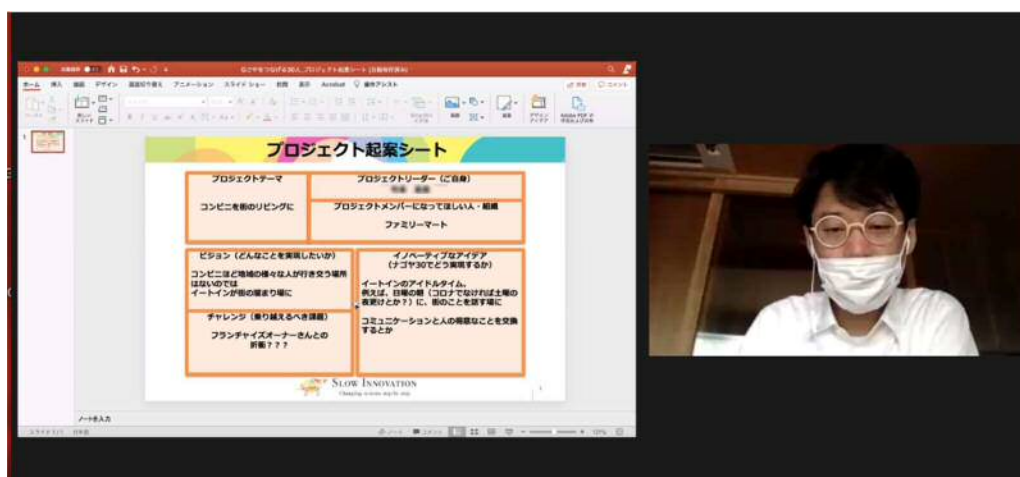
Day2 では前回に引き続きオンラインでの開催となりました。ナゴヤ 30 で取り組みたいプロジェクトを考えてきたメンバーの発表を経て、対話によるチーム作りが進められました。

Slow Innovation 株式会社の加生氏によるファシリテーションのもと、メンバー全員の自己紹介からスタートです。前回の感想・振り返りやこの 1 か月の自身の変化など一人一人お話しいただきました。事前にプレゼンオーナーとして手を挙げていただいた方以外にも、自己紹介の中で「実は発表したいことがある」と次々にプレゼンの立候補がありました。



プレゼンに臨むのは 10 名。一人で 2 つのプロジェクトを提案する方もいらっしゃいました。プロジェクト起案シートを使い、「テーマ」「実現したいビジョン」「乗り越えるべき課題」「実践のアイデア」などを発表しました。提案された 13 テーマをご紹介します。

- ・地域に最適化されたコンビニエンス
- ・コンビニを街のリビングに
- ・子育て「かけこみ寺」＝ネウボラ
- ・プロモーション～非現実を現実～
- ・忘れられない成人式
- ・地域で見守るヤングケアラー
- ・コンビニを活用した「まち」のおもちゃ箱づくり
- ・フードロス削減×多国籍料理
- ・「中村区」マイクロツーリズム
- ・異国の屋台
- ・中川区ものづくりの町工場を巡るまち歩き×アップサイクル
- ・中川運河を名古屋の名所に
- ・多様性理解促進の映像コンテンツ・ワークショップ



Day1 のワークショップで話題にあがっていた「多文化共生」や「地域とのつながり」からアイデアを広げたプロジェクトや、自身の仕事や暮らしの中で抱いた課題意識にもとづいたプロジェクトなど、一人一人の想いを強く感じるプレゼンばかりでした。

The screenshot shows a 'Project Proposal Sheet' (プロジェクト起案シート) with the following sections:

- プロジェクトテーマ** (Project Theme): 子育て『かけこみ寺』 (Child-rearing 'Kakekomi-ji')
- プロジェクトリーダー (ご自身)** (Project Leader (Yourself)): 社会福祉協議会、名古屋市、子育て中や予定の方、または卒業された経験者の方 (Social Welfare Council, Nagoya City, people with children or planning to have children, or graduates/experienced people)
- ビジョン (どんなことを実現したいか)** (Vision (What do you want to achieve?)):
 - ・子育てに困った・悩んだ親の「駆け込み寺」をつくる(出会う・集う・話す・つながれる場)
 - ・「妊婦から就学まで」の切れ目のない支援
 - ・…利用しやすく(敷居が低い)誰もが使える。
- イノベティブなアイデア (ナゴヤ30でどう実現するか)** (Innovative Idea (How to achieve it with Nagoya 30)):
 - フィンランドの「ネウボラ」(「ネウボ」相談・「ラ」場)を名古屋で実現
 - …モデル: 渋谷区
 - ・既存の支援との違い(場合によっては集約)
- チャレンジ (乗り越えるべき課題)** (Challenge (Obstacles to overcome)):
 - ・人の確保(保健士さんなど)
 - ・場所の確保
 - ・運営(継続性)

At the bottom, it says 'SLOW INNOVATION' and 'Change happens step by step'.

On the right, a video call participant is visible, showing a man in a blue shirt.

The screenshot shows a presentation slide with a colorful abstract background and the text '音さんぽ' (Oton-sanpo). Below the title, it says '2013年10月26日 土' (October 26, 2013, Saturday).

On the right, a video call participant is visible, showing a man with glasses and a blue shirt, gesturing with his hands.

次にグループ対話の時間です。

まずはプレゼンオーナーが、以下の6つの対話ルームに分けられました。

- ・多国籍コミュニティ×空き家活用
- ・地域で子育て支援
- ・ヤングケアラー
- ・フードロス削減×多国籍
- ・「まち」のおもちゃ箱づくり
- ・マイクロツーリズム

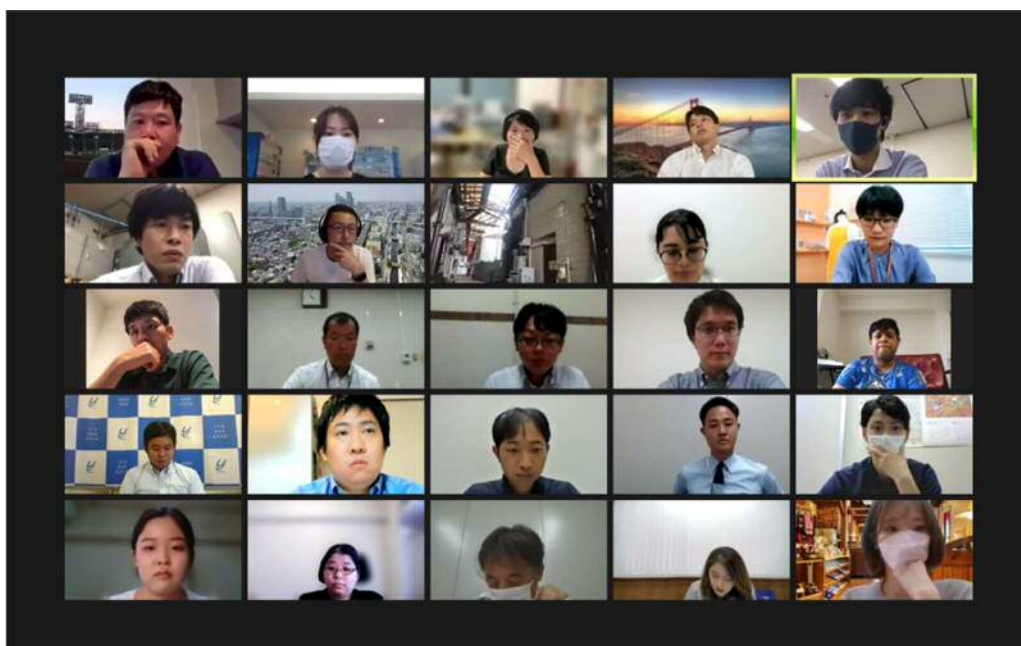
オーナー以外の参加者は、興味関心のあるルームを自由に移動し、30分間の対話を行いました。複数ルームに行くことも可能です。自分自身が今期の「ナゴヤ30」で、どのようなテーマで何に取り組みたいのかを考える時間になりました。テーマを深堀りしたり、各自の考えを共有したり、30分ではとても足りないくらい活発なやりとりがありました。

オーナーからは、「完全な素人だが、民間企業の方に気軽に入ってもらい、民間の力で福祉や介護の問題に挑戦するようなチームができたら」、「世界で取り組んでいるSDGsと名古屋市中村区の地域性に特化した課題、この二つを解決するようなプロジェクトを進めたい」、「中村区と中川区は共通点がある。マイクロツーリズムは、一般的な観光名所ではなく、地元の人が知っているところにフォーカスしたり、企業見学も面白いのでは」などの感想があり、メンバーと対話をする中で改めて自分の取り組みたいテーマに向き合う時間になったようです。



その後、マグネットテーブルを実施しました。

マグネットテーブルは、現時点で取り組みたいことを紙に書き、それぞれ紙が見えるように掲げながら部屋を歩き回り、できるだけ多くの人と紙を見せ合い、チームを作っていく手法です。「似たことを書いている人」、「一緒になると化学反応を起こせそうな人」、「自分で書いたものを捨ててもいいと思える案を書いている人」、「できるだけいつも関わりがない人」とチームを組むことがポイントです。今回はオンラインのため、全員で共有するスプレッドシートに「現時点でナゴヤ 30 において取り組みたい事」を書き、一人一言ずつ発表しました。



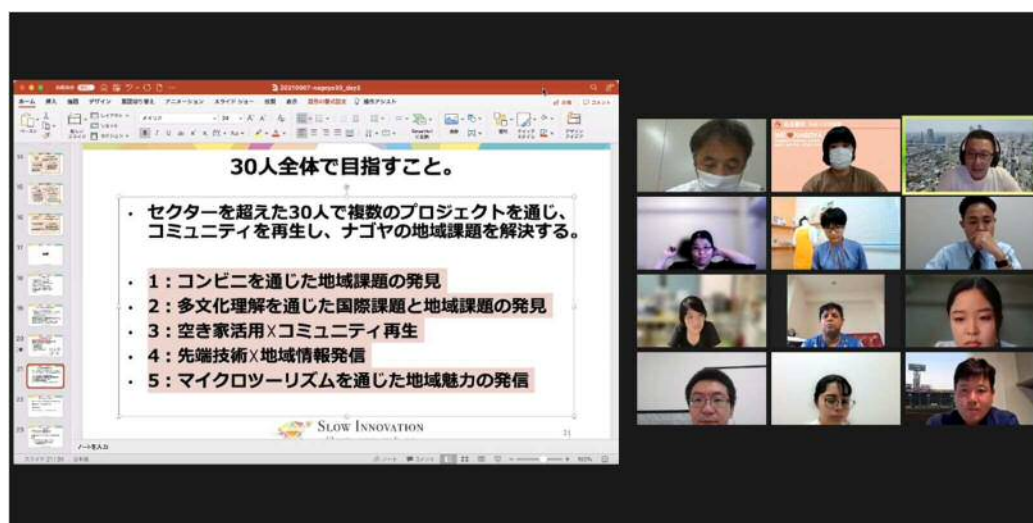
「マイクロツーリズムで地元の魅力を発信して、郷土愛やまちづくりにつなげていきたい」など地域の魅力発信に取り組みたい方、「地域課題や国際課題を名古屋から解決していく取り組みがしたい」、「高齢者や外国人、孤独を感じている若者など、様々な文化や考えを持った人々が交流できる場を作り、名古屋から発信していきたい」、「高齢者や子どもが抱える課題を集め、課題を抱えている者同士が課題を解決できるようなコミュニティを作りたい」など多様性や交流の場づくりに関心がある方、「仕事のつながりを生かして、プロジェクトを地域につなげることができるかもしれない」や「ドローンを使って地域の知らない魅力を発信していけるのでは」など自分の仕事とのつながりを考えた方…30人それぞれが感じたことを話していただきました。

参加者の意見を踏まえ、加生氏が以下のようにチームを整理しました。

- 1 コンビニを通じた地域課題の発見
- 2 多文化理解を通じた国際課題と地域課題の発見
- 3 空き家活用×地域コミュニティ
- 4 先端技術×地域情報発信
- 5 マイクロツーリズムを通じた地域魅力の発信

加生氏からは「30人が5つのグループにきっちり分かれるのではなく、30人で目指すべきところがあり、そのために複数のプロジェクトが走る。それぞれのチームは協力関係にあり、リンクしている。今回の30人だけでなく、ナゴヤ30のOBOG約60名も仲間だという前提でチーム作りを進めていきたい」と説明がありました。

スプレッドシートにそれぞれ自分が参加したいチームの番号を記入していきました。もちろん掛け持ちもOK。その後、時間がない中ではありましたが、現時点のチームで顔合わせを行いました。



チーム作りがメインとなる Day2 をオンラインで開催するのは、ナゴヤ30では初めてのことでした。メンバーも難しいところがあったかと思いますが、「場作り」、「多様性理解」、「地域の

魅力発信」など共通テーマのもと、チーム分けの一步手前までたどり着くことができました。

次回 Day3 は、チームと取り組むテーマを確定します。Day4 のオープンセッションに向けて、どのような「問い」を立て、どのようなステークホルダーを招くのか、準備が進められます。